

令和7年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：根室地区
- 2 事例報告学校名：根室市立歯舞学園
- 3 報告者職・氏名：校長 南 靖 志
- 4 キーワード：地域の資源・人材等を活用した「はばまい学」の実践

1 はじめに

本校は、本土最東端根室半島納沙布岬まで数キロの場所に位置し、「日本で一番朝日に近い学校」として、平成25年に近隣の四つの小学校と一つの中学校が合併し歯舞小中学校として開校後、令和2年に義務教育学校として新たにスタートした。

「主体的に学び、仲間との協働を通して人間性を高め、未来をつかむ力の育成」を学校教育目標に掲げ、歯舞校区学校運営協議会のご指導・ご助言を基に、歯舞漁業協同組合をはじめとした各種団体等のご協力をいただき、地元の産業や自然環境等様々な教育資源を生かした総合的な学習の時間・生活科「はばまい学」を実践している。

2 義務教育学校の強みを生かした一貫教育の展開

本校は、児童生徒の発達段階を考慮し、初等部（1～4年生）は体験学習を通して「知る」、中等部（5～7年生）は地域を題材とした学習を通して「学ぶ・考え合う」、高等部（8・9年生）は既習事項を基に「発信する」活動を行うことで、地域を知り、感謝し、一員として地域を支える人間を育てる一貫教育を展開している。

(1) 地域を「知る」

初等部1・2年生は本校区根室海峡側の主要水産物であるアサリについて、稚貝を撒き、収穫期に実際に熊手を使って掘り、稚貝から収穫期までの大きさの比較をする等学びを深めている。

また、3・4年生は同じく根室海峡側にある大潮の際に陸続きとなる小島（私有地）に特別な許可を得て赴き、魚介類の採取を行うとともに、太平洋側で地引き網体験を行い、同様の活動を行うことで、地区によって捕れる魚介類の違いを知るとともに、祖父や父が営んでいる漁業を知る学習を行っている。



(2) 地域を「学ぶ、考え合う」

初等部時代に地域の主要水産物を学んだ中等部5年生は、地域の特産物であるコンブを使った料理にチャレンジすることで、仲間と協力してよりおいしい料理になるよう考え合い、学び合っている。



また、6年生は主要水産物の一つである鮭の冬葉（トバ）づくりにチャレンジしたり、市の自然文化財に登録された歯舞湿原について、北大教授や市学芸員を講師に迎え、実地研修や市文化財会議にゲスト出席したりすることで、地域の自然や歴史を学ぶとともに、近年多く設置されてきたメガソーラーパネルとの共存方法について考え合っている。



(3) 学びは後期課程につなげ、地域に「発信する」

本校は9年間の義務教育学校であるため、前期課程の学びが後期課程にもつながっていることをここで紹介する。

中等部7年生は趣向を変え、地震による津波の被害が懸念されている本地区において、「地域の人々を守る」ことをねらいに防災学習を行っている。

また、高等部8年生は地元の主要水産物である「はばまい昆布」を多くの人に知ってもらいたいという宿泊研修の活動の一つとして、地元の「はばまい昆布」を使用した「はばまい昆布しょうゆ」を釧路空港及びJR釧路駅に赴き、観光客に配布しながら、既習事項より学んだ地元のよさを発信している。

さらに、高等部9年生は、「地域活性化プラン」として1年生から学んできたことを基に地域課題を各自で設定し、その解決に向けたプランを発表するとともに自身が今後地域の一員としてどう関わっていくか決意表明を行っている。



3 終わりに

「はばまい学」の取組を通し、本校の児童生徒は学校教育目標である、「主体的に学び、仲間との協働を通して、人間性を高め、未来をつかむ力の育成」の姿に少しずつであるが確実に近づいている。

また、本校の卒業生の多くが進学する地元北海道根室高等学校では2年前より、「総合的探究の時間」を行っており、地元へ赴き課題を発見し、地元の声を聞きながら、「自分はどの程度関わることができるか」を考えさせ、個人・グループで学習活動を行っている。

本校の取組が高校までつながることにより、「小中高一貫教育」に近い将来実現できるよう今後も地域の皆様のお力を借りながら工夫改善を行い精進していきたい。

「今回の歯舞湿原学習で、私達の住む歯舞が世界的にも貴重な場所であるという事が分かりました。これからは地域に生息する鳥や花なども勉強して、このすばらしい歯舞をしっかり守っていきたくて思いました」（6年生児童の感想文より一部抜粋）